

ご意見要旨と区の考え方

番号	意見要旨	区の考え方
<平野区の現状・課題について>		
1	現状というなら、人口の多さや歴史資源など、ポジティブな現状も多くあると思うので、タイトルを「現状と課題」から「課題と求められる対応策」としてはどうか？	平野区が今後解決・対応していかないといけない課題については、多岐にわたり、様々な分野の課題が絡み合い複雑化・複合化している状況です。今回の将来ビジョンでは、今後平野区が取組を行うにあたり、解決していかないといけない項目をわかりやすく提示するため、簡単な文言で記載を行いました。
2	課題を表現するのに、こどものシャボン玉のイラストはどうかと思う。今後4年間で主に取り組んでいく課題を表記すればいいのではないか。また、「担い手の不足・減少」とは地域活動の担い手のことなのか？ スライドの明るいキャラクターのシャボン玉のデザインとシャボン玉に記載されている比較的ネガティブな課題がミスマッチな気がします。ポジティブな言い方に替えたほうが、分かりやすいのではないかと思います。	例えば、「担い手の不足・減少」については、「地域活動や福祉活動などを行っていただいている方々の不足・高齢化など」を表しています。 一方で、簡単な文言とした結果、ご意見のとおり、漠然とした表記となりわかりにくい項目も存在しておりましたので、タイトルを「平野区が抱える課題」とし、課題の表記についても短文での説明へと変更しました。
3	課題が多岐にわたることは理解できるが一般的である。課題を分類ごとに整理するほうがよいと思う。	イラストについては、現在山積している課題を解消していきたいとの考えから、いずれは消えるというイメージができるシャボン玉を用いて表現しているところですが、ご意見にもあるように、楽しそうにシャボン玉をしているこどものイラストとは合わない点もございましたので、困っているひらちゃんのイラストとしました。また、シャボン玉の色についても、まちづくりの方向性にて示しているカラー（青・オレンジ・緑）の3色に分類しました。
<めざす将来像について>		
4	一人ひとりが尊重されることが明記されておらず、「つながり」や「誰一人取り残さず」が強調されている。この主語は「区民」だろうか？それとも行政職員だろうか？「区民」ならば、最も多い年齢層である15～64歳が、その「つながり」や「誰一人取り残さない」という責任を担わなくてはならない。そう考えると荷が重く「笑顔輝くまち」にはならない。もし主語が行政職員ならば、かなりのチャレンジになるがぜひ頑張してほしい。 なお、「区役所職員間のつながり」は、あきらかに行政職員の職責であるが、それはめざすものではなく組織スキルであると思うので、少し整理が必要だと思う。 「平野区に暮らし働く人の一人ひとりが尊重され、さまざまにつながること、みな笑顔になれるまちをめざします。」などシンプルな文章にしてはどうか。	当初の案では「平野区にかかわるすべての人々」がめざす将来像として「笑顔輝くまち ひらの」を掲げ、将来像の実現への方向性として「あらゆるつながりを大切にすることにより、誰一人も取り残さず、平野区に関わるすべての人が笑顔で暮らしやすいまちをめざす」としました。 「つながり」については、ひとり・単独の取組では解決できないことも、様々な人や分野が連携する（つながる）ことで解決に導きたいと考え、その具体例として、「地域のつながり、地域と区役所のつながり、区役所職員間のつながり」としました。 ご意見にもありますように、将来像の実現に向けて「一人ひとりが尊重される」ことは当然のことであり、「家族間のつながり」や「隣近所をつなぐり」も大切なつながりである一方、「区役所職員間のつながり」は区役所で進めている施策分野の「連携」を意図したのですが、「目標」と「手法」が混同しているようにも取れます。また、「誰一人も取り残さない」という表現については、大阪市としてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組を推進しており、その理念を引用したところですが、
5	「地域のつながり」の前に、「家族のつながり、となり近所とのつながり」を追加してはどうでしょうか。	いただいたご意見を踏まえ、「あらゆるつながりを大切にしたい取組をすすめることで、平野区につながるすべての人、一人ひとりが尊重されるとともに、笑顔で暮らしやすいまちをめざします」と変更し、「大阪行動憲章」を表記することで、SDGs推進を示しました。
6	「すべての人が笑顔で…」で言い尽くせていると思うので、「誰一人取り残さず」は不要だと思う。	ご意見にもありますように、将来像の実現に向けて「一人ひとりが尊重される」ことは当然のことであり、「家族間のつながり」や「隣近所をつなぐり」も大切なつながりである一方、「区役所職員間のつながり」は区役所で進めている施策分野の「連携」を意図したのですが、「目標」と「手法」が混同しているようにも取れます。また、「誰一人も取り残さない」という表現については、大阪市としてSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた取組を推進しており、その理念を引用したところですが、
<将来像の実現に向けた施策（まちづくり）の方向性について>		
7	「地域」や「福祉」等、抽象的な書き方ばかりでわかりにくい。具体的に職員は何をするのか？また、「福祉」とは何のことなのか？	平野区将来ビジョンは、令和4年度から令和7年度の4年間を見据えた、区のめざすべき将来像とその実現に向けた施策の方向性等をとりまとめたものです。
8	「安全・安心」「みんなで支えあう福祉」「こどもが元気で育つ」の3つがまちづくりの柱である事は理解できる。また、「笑顔輝くまち ひらの」というのもキャッチコピーとして良いが、行政と住民の連携・協働のような具体的な表現がほしい。	平野区将来ビジョンに記載されている「福祉」とは、支援が必要な人を支えるという意味だけではなく、地域に住む住民が健やかにいきいきと暮らせること、認知症や障がいについて正しい理解が得られることなど、幅広い意味での記載としています。 平野区が行う具体的な取組については、単年度ごとの具体的な取組を平野区運営方針にて示してまいります。平野区運営方針については、ホームページへも掲載しておりますので、下記URLをご参照ください。 <平野区運営方針> https://www.city.osaka.lg.jp/hirano/category/3473-2-0-0-0-0-0-0-0.html

番号	意見要旨	区の考え方
<安全・安心のまちづくりについて>		
9	行政の判断で進めてよい分野と住民参加が好ましい分野を分けて記述するのが良い。平野区の各地区で既に先進的な取組を行っている事例もあるので、これを水平展開することも良いと思われる。	平野区では、誰もが愛着を持ち、安心して住み続けることができるまちをめざすまちの姿の1つとし、「安全・安心のまちづくり」に向けた取組を進めることを考えています。
10	安全・安心なまちに向けた戦略（取組）の1つ目の項目について、文章の主語（主体）は平野区または平野区役所だと思いますが、区が自主防災組織による主体的な取組を実施するという文章に見えるので、主体的な取組を「推進」「促進」「支援」などに変える方がよいのではないかと？	安全・安心という言葉からも連想されやすい、防災や防犯の取組や、地域と行政が協働しながら地域課題の解決に取り組むことができるよう、地域活動への支援、まちの魅力の向上に向けた取組などを進めていくことで、安全・安心なまちとなるのではないかと考えております。
11	地域住民との協働とはどのようなものを指しているのか。地域活動に参加されている方の多くは高齢者であり、実際に災害が起きた時に不安がある。	防災における取組については、地域においては、防災リーダーを中心として、自主的な防災活動の実施や、防災意識の普及啓発に努めていただいております。各地域において、様々な工夫をこらした独自の取組が実施されているところですが、区役所においても避難所主任による各避難所の確認等を行っておりますが、災害発生時すぐに駆けつけることが困難な場合も想定されますので、自助・共助（自主防災組織）の重要性を理解いただくことが必要であると考えています。
12	地域住民との協働や警察との連携について、例えば、各地区で実施する避難所開設・受入訓練に、学校ごとに区役所で決めている「避難所主任」も参加し、平時から顔の見える関係を作っておくのはどうか？	平野区では、4人に1人が65歳以上の高齢者となっており、高齢化が進んでいます。そのような中で、自治会加入率は低迷しており、新たな担い手の確保が難しい状態です。現在、地域活動には、多くの高齢者の方にご参加いただいておりますが、地域コミュニティの維持には、こどもから高齢者まで幅広い世代が地域活動に参画できる環境づくりを進めることが大切であると考えています。
13	各地区で企画されている防災事業を区役所を把握していると思うので、地区間での勉強・情報供給を目的とした相互交流をコーディネートしてほしい。 災害時に地区で被害状況を把握し、区へ「つなげる」事により、いち早く行政からの適切な支援に「つなげる」ために、地区と区役所間の防災訓練を実施して欲しい。	道路の白線補修や公園の環境整備等について、地域魅力の向上として、誰もが安心して気持ちよく過ごせる環境づくりは大切であることから、安全・安心のまちとするために改善すべき項目であると考えておりますが、平野区のみで対応ができない場合もありますので、関係部署へ情報提供や対応依頼を行うなど、連携してよりよいまちとなるよう努めてまいります。また、平野区においては、花づくりボランティアの皆様が種から花を育てているなど、地域において緑化推進も取り組まれています。今後も、住民の目につきやすいところでの緑化など、地域において緑化推進が進んでいくよう、取組を検討してまいりたいと思います。
14	防災における「つなげる ひらの」の取組として、「地震による被害直後に、無事を知らせる防災タオルの掲示」の平野区全体での活動を提案します。被災直後は、地区内で住民同士が「つながり」、また、この活動により地区で被害状況を把握し、区へ「つなげる」事により、いち早く行政からの適切な支援に「つなげ」、平野区民の安全安心につながるのではないかとと思う。	平野区将来ビジョンは、令和4年度から令和7年度の4年間を見据えた、区のめざすべき将来像とその実現に向けた施策の方向性等をとりまとめたものであり、具体的な取組については、単年度ごとの具体的な取組を平野区運営方針にて示してまいりますので、今後の取組を進めていく際に検討してまいります。
15	『安全安心なまち』というなら、道路の消えかけた白線を引き直してください。消えかけている・消えている箇所が多々あり、危険です。	
16	長原駅前未利用地近辺の一部は、治安や環境面で課題があると思うので、自治会を設置して、地域と人と人のつながりや情報交換ができるようにすれば、防災、防犯、美化強化などを推進し、安全安心に過ごせるまちづくりをめざせるのではないかと？	
17	昔は歩道には必ず木や植栽が植えられており、人々も潤っていましたが、今は全くないため、イライラすることが多いです。都構想、IR、関西万博などを考えるよりも、もっと人々がイライラせずに安全安心に暮らせるまちづくりに取り組んでいただきたいです。 長吉東部中央公園について、園児から高齢者まで有意義に利用されているようですが、遊歩道沿いなど雑草が伸び放題、手入れした様子が見られない。便所は老朽化がひどく、便器に至っては底面が大きく割れたままです。管理はどこがやっているのでしょうか。いっそのこと地域住民のボランティアを募ったらいかがでしょうか。早急な対策を望みます。	

番号	意見要旨	区の考え方
<まちづくりについて>		
18	「未利用地の活用方法」等について、平野区の4地区（加美、平野、喜連瓜破、長吉）は、それぞれ歴史・文化において微妙な差異があるので、それらの特徴に沿った計画立案が必要と思う。	未利用地の有効活用の方向性を整理するため、区政会議や区民モニターアンケート（無作為アンケート）・市民の声等でいただいたご意見をもとに区民ニーズの把握に努めております。
19	老若男女問わず笑顔になれる居場所づくりを行うべきである。そのために、企業との連携や様々なアイデアを募り、区内北部からの直通バスの整備や、平野区以外の近隣地域の住民も取り込めるような施設や設備を揃えていくべきである。	平野区は、全般的には住居地域としての色合いが強いものの、南部の喜連・瓜破・長吉地域は市営住宅や中高層住宅が建つ比較的新しい町並みの中に農地や遺跡が存在し、中央部の平野地域は古い家々と多数の神社・仏閣が存在する町並み、北部の加美地域は工業地域としての性格を有する町並みなどバラエティーに富んでいます。
20	未利用地となっている旧大和川小学校跡地を民間に売却し、長原タウンとして、一戸建て住宅の建設用地として活用してはどうか？	未利用地の活用にあたっては、こうした各地域の特性を踏まえ、また平野区の歴史・文化遺産にも配慮しつつ、まちの魅力向上や地域の活性化に資する活用を図る必要があると考えています。
21	「遊菜館（リフレうりわり）の跡地、「市立市民交流センターひらの」の跡地を活用するか、売却する等してほしい。	平成30年1月には、長吉地域東部において、地域特性等の現況分析を行いながら土地利用の方向性をとりまとめ、区政会議やパブリックコメント等で意見を伺いながら、長吉ウェルカムタウン計画を策定するとともに、令和3年4月には長原駅前未利用地を活用したまちづくり基本方針を公表しています。
22	内環状線に路上駐車がが多いので、御堂筋のように路肩を有料の駐車スペースにしてはどうか。	一方、ご意見にもあるように、平野区にはたくさんの歴史的、文化的価値がある資源があり、こうした資産を多くの方に知っていただくことで、まちの魅力向上や地域コミュニティの発展につながると考えられますので、広くまちの魅力を情報発信していければと考えています。
23	<p>「未利用地の有効活用」に関して、既に検討中の案があるかと思いますが、「歴史と伝統のまち平野」のことが分かる「まちづくり館」のようなものがないかと思っています。他の箇所も含め、ほとんど具体的に示されていないので、具体的にどういう案（考え）があるかを提示してほしいです。</p> <p>平野区は歴史豊かな町でありながら、博物館が見当たらない。歴史ある町には大抵、博物館が存在している。こどもたちの郷土愛教育のためにも、現在展開中の『町ぐるみ博物館』の中核になるようなものが必要ではないか？</p> <p>「町ぐるみ博物館」の再興を加える。散歩道を再整備し、区内の社会教育と区外への平野区の魅力発信に役立てる。</p>	<p>今回いただいたご意見につきましては、今後のまちづくりの参考とさせていただきます。</p> <p>なお、平野区将来ビジョンは、令和4年度から令和7年度の4年間を見据えた、区のめざすべき将来像とその実現に向けた施策の方向性等をとりまとめたものであり、具体的な取組については、単年度ごとの具体的取組を平野区運営方針にて示してまいります。</p>
24	<p>「魅力あるまちづくり」の柱に地区の歴史・文化を主軸に置くのが良い。これが郷土への愛着に繋がる。長原駅前、平野駅、喜連瓜破駅、出戸駅等の駅前と比べて未開発であるので、「にぎわい拠点」の創設は非常に良い。</p> <p>平野区まちの魅力は国際的な文化機関から高く評価されている。海外学識者から感じている平野区まちの魅力、平野区民が享受できるような施策があれば「平野区に住み続けたいと思う動機付け」の一助になり、地域の魅力について広く浸透し、次世代継承を新しく切り開きうる。また、「安心して住み続ける」ための「安心安全」は、地域コミュニティ再生の基盤になり、住民の文化的アイデンティティが動機付けとなりプラスに働くことは自明であるため、現状・課題として、「平野区には高い文化資源があること・文化資源は「まちの魅力」を高め、それにより地域のつながりを生むことができること・現時点では十分にその魅力を区民が知り享受する機会が創出できていないこと」を記載してはどうか。</p>	
25	<p>長原駅前エリアには、長原遺跡から出土した埴輪等と共に「古代船なみはや」を長原遺跡の名前を知らせるモニュメントとしてほしい。将来を担うこどもたちが地域の歴史を学ぶ絶好の場になると思う。</p> <p>「古代船なみはや」を平野区民センターや他の未利用地に移設展示し、地元歴史のシンボルとして活用してはどうか。</p>	
26	長吉東部の北側地域については、長原遺跡の数少ない未調査地区であるため、まず史跡として指定し整備すべきである。また、同地域の南西部は、史跡公園として整備し、野外展示の建物や展示物を設置すれば年齢を問わず興味を引くであろうし、広場を設ければ、イベント会場として交流の場として活用でき、緊急避難場所としても活用が可能であると思われる。	

番号	意見要旨	区の考え方
＜みんなで支えあう福祉のまちづくりについて＞		
27	生活保護の不正受給対策にもメスを入れてほしい。	平野区では、すべての人がお互いを尊重しつつ、つながり、支えあえるまちをめざすまちの姿の1つとし、「みんなで支えあう福祉のまちづくり」に向けた取組を進めることを考えています。
28	民生委員の活動を拡充・強化するなど活発にするべき。	認知症や障がいのある方等、さまざまな状況に対する理解を深め、地域支援体制を有効的に機能させることで、健やかでいきいきと暮らせるまちとなるのではないかと考えております。
29	高齢者や要介護・要支援者等の見守りを必要とする人は多く、今後も増加します。それらの方々をスキルを持った一部の方が訪問し、支援につなげるのは限界があると思います。支援すべき方の程度は様々なので一概に言えないですが、可能な方には曜日ごとに色の違う目印（タオル・ハンカチなど）を掲げてもらい「今日も元気です」の目印にするのはどうでしょうか？これなら特別なスキルに関係なく、近所や地区の役員等の一般の方が「見守る」活動になると思います。	今後、さらに高齢化が進み、支援を必要とする方は増加していくことが予想されますので、持続可能な支援のかたちを整えていく事が必要であると考えております。これまで以上に地域福祉コーディネーターや民生委員児童委員のみなさんと連携し、地域の福祉活動を推進してまいります。地域にお住まいの方々の活動もとても重要であると考えておりますので、それぞれの地域にお住まいの方々が中心となった、地域住民による自律した活動も引き続き行っていただければ幸いです。
30	高齢者と子どもたちが昔遊びで交流したり、運動会を学校と地域で協力して行うのはどうか？子どもたちが認知症や障がいがある人などへの正しい理解を促進させることが大事であると思う。大人に助けてもらった経験がある子どもは、人を助けるし、困った時に助けを求めることができるようになると思う。一緒に考えようと声をかけてくれる大人に出会えることが大切だと思います。	また、生活保護の運用につきましては、様々な課題があると認識しており、不正受給の問題もある一方で、本当に支援が必要な方が躊躇せずに制度につながるができるようにするなど、適正な運用に努めてまいります。 平野区将来ビジョンは、令和4年度から令和7年度の4年間を見据えた、区のめざすべき将来像とその実現に向けた施策の方向性等をとりまとめたものであり、具体的な取組については、単年度ごとの具体的取組を平野区運営方針にて示してまいりますので、今後の取組を進めていく際に検討してまいります。
＜こどもが元気で育つまちづくりについて＞		
31	親、即ち成人教育が重要である。シンポジウムなど広報的な活動を強化すべきである。	平野区では、子どもたちが家庭・学校・地域で生まれ健やかに成長し、次の世代を担っていくことができるまちをめざすまちの姿の1つとし、「こどもが元気で育つまちづくり」に向けた取組を進めることを考えています。
32	こどもの権利を守れているか疑問に思う。こどもの学力・体力の低下、不登校は学校を変えることからスタートすべきと思う。家庭教育は格差が生まれており、限界を迎えつつある。学校の教員が笑顔で元気がならないと、こどもは元気がならない、親が笑顔にならないと、こどもは笑顔にならないと思います。その為に、20人程度の少人数学級の設立など、色々なタイプの学校が区内にあればと思います。	こどもたちの基礎学力の向上・家庭学習・生活習慣の定着に向けた取組や、妊娠期から子育て期・こどもの社会的自立まで切れ目なく支援を行うことで、子どもたちが元気で育つまちとなるのではないかと考えております。 現在、平野区としても子どもたちが適切な環境で養育されるよう、子育てに不安や悩みがある保護者へのサポートや子育て支援関係者へのスキルアップ研修などの取組を行っておりますが、十分に知られていないという点もあります。 平野区将来ビジョンは、令和4年度から令和7年度の4年間を見据えた、区のめざすべき将来像とその実現に向けた施策の方向性等をとりまとめたものであり、具体的な取組については、単年度ごとの具体的取組を平野区運営方針にて示してまいりますので、今後の取組を進めていく際に検討してまいります。

番号	意見要旨	区の考え方
<施策間の連携強化について>		
33	連携例の黄色文字が読めません。	施策（取組分野）間の連携例の記載については、施策（取組分野）をわかりやすく明記する方法として、「安全・安心のまちづくり」を青字、「みんなで支えあう福祉のまちづくり」を黄字、「こどもが元気で育つまちづくり」を緑字で記載しているところです。一方で、ご意見にもあるように、印刷の都合もあり文字が見にくくなっている部分もありましたので、黒字とし背景をそれぞれの色で示しました。
34	<p>「福祉×こども」の連携について、平野区内の各地に昔で言う寺子屋みたいな所に、こどもが学校の帰りに寄ってみる等、高齢者の中には昔カウンセラーをしていた人がいるので再雇用して社会の為に働いていただく取組はどうでしょうか？</p> <p>「地域活動×こども」の連携について、平野区内の各地にこども食堂を増やすことはどうでしょうか？元気な高齢者の方が集まり、それぞれ得意な料理をしていただいて地域に貢献している事を実感していただくなど、役に立ちたいと思っている人は沢山いると思います。昭和のように、皆でワイワイさわぎながら地域の人と交流するのはお互いのためになると思います。</p>	<p>平野区では、こどもを中心に世代を超えた多様なつながりの場となり、地域住民同士が気軽に集う交流の場として、「みんな食堂」が広がっています。</p> <p>また、地域の方が講師となり、集会所等での「工作教室」や「料理教室」等、こども達と大人と一緒に体験する場を設ける取組等が地域において行われています。</p> <p>ご意見のとおり、こどもを中心として多世代の地域住民同士がつながる事で、こどもの居場所確保や貧困の問題、地域活動の活発化、生きがいづくり等、様々な課題への改善につながると考えられます。</p>
35	<p>『防災×福祉』の取組として、従来の災害時避難訓練に加え、避難行動要支援者にスポットを当てた避難訓練を実施・支援してはどうか？</p> <p>『防災×福祉×こども』の取組として、要支援者の避難には若者のパワーが必要となる。そこで、各地区の防災リーダーが主体となり、地区内の中学生・小学生高学年を対象に、防災訓練を通し「防災ジュニアチーム」を作り、発災時の要支援者の避難に備えてはどうか？</p>	<p>防災の取組につきまして、現在は地域で主体的に地域住民を引き込んで防災活動に取り組んでいただいているところです。ご意見にもあるよう、普段からの防災訓練の積み重ねは、防災技術や防災知識の習得につながると考えております。今後は、新たに地域の学校や企業等に対して訓練の参加を呼び掛けるなど、参加対象を拡大し、地域が一体となって防災活動が行えるよう区役所も支援していきたいと考えております。また、地域の高齢者や障がい者などの避難行動要支援者が災害時に円滑かつ迅速な避難が行えるよう地域住民の理解を進める必要がありますので、今後、自主防災組織や社会福祉協議会等と連携し、協力を得ながら進めていきたいと考えております。</p> <p>平野区将来ビジョンは、令和4年度から令和7年度の4年間を見据えた、区のめざすべき将来像とその実現に向けた施策の方向性等をとりまとめたものであり、具体的な取組については、単年度ごとの具体的な取組を平野区運営方針にて示してまいりますので、今後の取組を進めていく際に検討してまいります。</p>
<SDGsについて>		
36	SDGsを推しているようだが、具体的に職員がどう動くのかわかりにくい。そもそも区民の大半が理解していないと思うし、職員ですら知らない者がいるのではないか、そのような中でSDGsをアピールしても仕方ないのではないか。	SDGsにつきましては、世界レベルでの幅広い課題の解決に向けた取組であります。大阪市が進めているさまざまな取組とも密接な関わりがあります。SDGsが掲げる「誰一人取り残さない」という理念と「大阪まち・ひと・しごと創生総合戦略」に掲げる方向性が一致していることから、大阪市におけるSDGsの推進にあたっては、総合戦略と一体的に推進しているところです。
37	「SDGs」の17目標ロゴの中の文字が読める大きさに印刷が仕上がるようにお願いします。難しいのであれば、下部に箇条書きでも記載してはどうか？	<p>平野区でも、「子育て・教育環境の充実」、「支援が必要な方への適切な支援」、「地域防災力の強化」、「健康で安心して暮らし続けられる地域づくり」など、SDGsの目標である持続可能な社会をめざした様々な取組を進めていることから、今回の将来ビジョンへも関連するSDGsのロゴを掲載しているところです。</p> <p>また、SDGsの周知・啓発につきましては広報紙等を活用し、平野区の取組と関連のSDGsを啓発しているところではありますが、ご指摘のとおり、認知度の向上は課題であり、新たな向上策として今般、平野区ホームページにおいてSDGsの詳細をまとめたページを作成しましたので、下記URLよりご参照いただければ幸いです。</p> <p><平野区HP SDGsの取組について> https://www.city.osaka.lg.jp/hirano/page/0000555560.html</p>